速報展

発掘された鈴鹿 2011

2012年3月22日(木)～6月24日(日)

鈴鹿市考古博物館では，毎年市内遺跡の発掘調査の成果をいち早く皆さまにお知らせするため，速報展「発掘された鈴鹿」を開催しています。

2011 年は 8 遺跡（12 調査区）で発掘調査を行いました。発掘調査はその目的によって，考古学の研究上必要とされる場合に行われる学術調査と，開発などの工事のために壊される場合に行われる緊急調査の 2 種類に分けられます。遺跡は現状のまま後世に残すのが望ましいのですが，開発に伴いやむなく壊される場合も少なくありません。市内では 7 遺跡が緊急調査によるものでした。

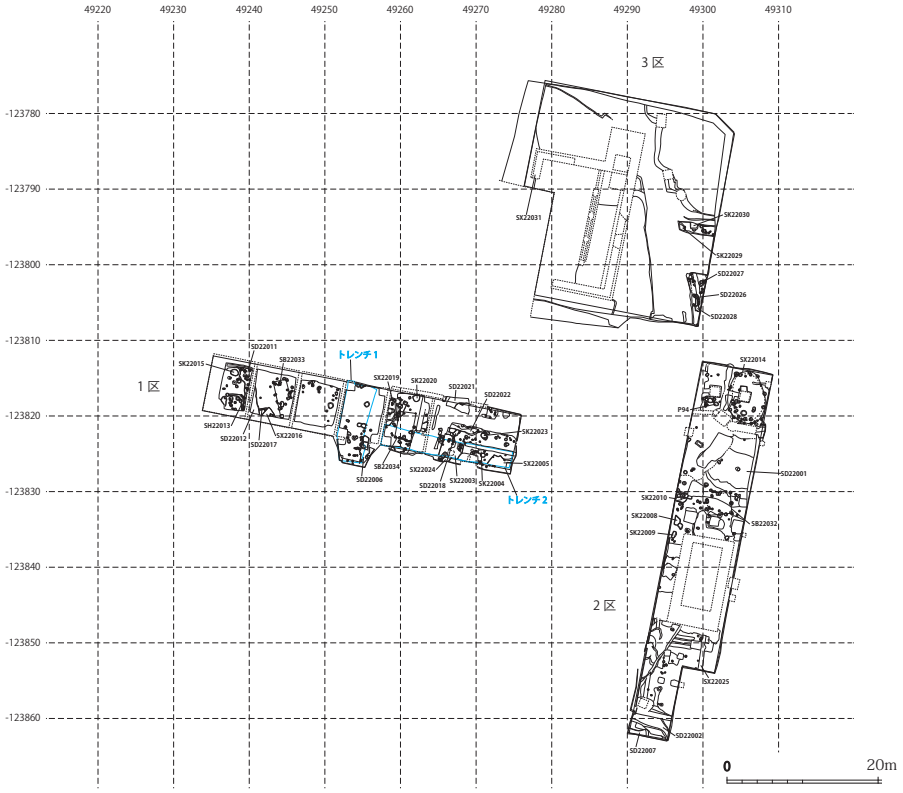
速報展では，出土した遺物とともに，発掘調査現場の様子や遺物の出土状況，遺構の詳細などを写真パネルや図面で紹介いたします。

この機会に，郷土の貴重な文化遺産に触れ，その保護への取り組みについてご理解いただけましたら幸いです。

磐城山遺跡　竪穴住居 SH0428・29（南から）

平田（ひらた）遺跡　第 22 ～ 24 次　平田本町一丁目・弓削一丁目

22 次　11 月 18 日～ 2 月 25 日　平田送水場改築に伴う緊急調査
23 次　 4 月 12 日～ 4 月 15 日　宅地造成事業に伴う緊急調査
24 次　 9 月 14 日～ 9 月 27 日　宅地造成事業に伴う緊急調査



第 22 次主要遺構平面図　S=1：1,000

第 22 次作業風景

第 22 次 SK22015 土器出土状況

第 22 次調査区全景（北から）

第 22 次 1 区作業風景（西から）

第 22 次トレンチ 2 西部（西から）

平田遺跡は，鈴鹿川右岸の河岸段丘上に位置します。これまでの調査で，方形周溝墓（ほうけいしゅうこうぼ），古墳時代から平安時代頃の集落跡，道路状遺構，中世の建物跡などを確認しています。格式の高いとされる四面廂付掘立柱建物（しめんひさしつき）や道路跡の検出，円面硯（えんめんけん）等の出土により，官衙（かんが）関連施設や有力豪族の居宅が想定されています。『続日本後紀』には平安時代前期頃の当地に川俣県造（かわまたのあがたのみやつこ）の一族が居住していたとの記述があり，川俣氏との関係も考えられる遺跡です。

22 次調査では，溝及び竪穴住居，掘立柱建物，土坑（どこう），ピットなどを検出し，縄文土器，弥生土器，土師器（はじき），須恵器（すえき），山茶碗（やまぢゃわん），山皿などが出土しました。2 区北部のピット群からは比較的多くの縄文土器が見つかり，縄文時代の遺構が存在した可能性も検討されています。23 次調査では，中世の陶器や山茶碗・山皿などが出土し，24 次調査では方形周溝墓を検出しました。

磐城山遺跡　第３次－２期，第４次　木田町字上條

３次-2期　2月1日～3月31日　農地改良工事に伴う緊急調査
４次　　4月4日～10月2日　農地改良工事に伴う緊急調査

第４次調査区全景（北西から）

第４次 SH0455 土器出土状況

第４次作業風景

磐城山遺跡は，鈴鹿川左岸の丘陵上に位置する弥生時代後期後半を主体とする遺跡です。この遺跡が立地する高岡丘陵上には，青谷遺跡，扇広遺跡，中尾山遺跡，寺山遺跡など弥生時代の遺跡が多く所在します。

１～３次調査において，弥生時代後期及び古墳時代後期の竪穴住居が100棟ほど確認されています。４次調査でも竪穴住居16棟以上を確認しました。今回の４次調査で，弥生時代後期前半の竪穴住居２棟が見つかり，この遺跡がこれまで考えられていたより100年ほど時期が古くなることがわかりました。そのほか遺構として，掘立柱建物，土坑，多数の溝と柱穴を検出しました。遺物では，弥生土器，土師器，須恵器，灰釉陶器，山茶碗，石器などが出土しました。

SH03111 出土ナイフ形石器

0　　10m

第 3・4 次調査区遺構平面図　S=1：300

第 4 次 SD0427 土器出土状況

第 4 次土器出土状況

須賀（すか）遺跡　第６次　須賀一丁目

10 月 3 日～ 12 月 22 日　宅地造成事業に伴う緊急調査

第 6 次遺構平面図　S＝1:450

方形周溝墓 SX0621（北東から）

SX0621（北から）

SX0621 西辺土層（北から）

須賀遺跡は，鈴鹿川右岸に広がる段丘の最東端に位置する，弥生時代～中世の複合遺跡です。平成 21 年に行われた 5 次調査では，環濠（かんごう）と考えられる大溝から大量の弥生土器が出土しました。この環濠からは，県内最大の弥生時代中期の壺も出土しています。

6 次調査では，竪穴住居，掘立柱建物，方形周溝墓，溝，自然流路，土坑などを検出しました。2 区においては，2 面の検出面で調査を行いました。第 1 検出面は古墳時代～中世，第 2 検出面は弥生時代以前の遺構です。弥生土器，土師器，須恵器，緑釉（りょくゆう）陶器，黒色土器，灰釉陶器，青磁（せいじ），山茶碗などが出土しています。

門山遺跡　第２次　平野町字門山

4 月 20 日～ 5 月 18 日　　宅地造成事業に伴う緊急調査

門山遺跡は，鈴鹿川右岸の河岸段丘上に位置します。1 次調査で，遺跡範囲内の古墳状の高まりが古墳ではなく，西に隣接する平野城跡に関連する遺構である可能性が指摘されました。

今回の調査では，溝，土坑，柱穴などが確認され，弥生土器，土師器，須恵器，青磁などが出土しています。

北東区全景（西から）

岡太神社遺跡　第５・６次　岡田一丁目

5 次　5 月 16 日～ 5 月 19 日　　宅地造成事業に伴う緊急調査
6 次　9 月 5 日～ 11 月 16 日　　宅地造成事業に伴う緊急調査

第 6 次Ａ区東側全景（北から）

岡太神社遺跡は，鈴鹿川右岸の段丘上に位置する式内岡太神社を中心とした遺跡です。過去の調査では，平安時代末～室町時代の溝や土坑，井戸，道路遺構が見つかり，山茶碗などが出土しています。

5・6 次調査では，溝，土坑，井戸などが確認され，土師器の羽釜や皿，山茶碗など中世の土器や陶器が出土しました。

保子里遺跡　第６次　国府町字井口

6 月 6 日～ 6 月 9 日　　託児所建設に伴う緊急調査

保子里遺跡は，鈴鹿川右岸の中位段丘上に位置する縄文時代前期から中世までの複合遺跡です。過去の調査で，縄文時代から古墳時代にかけて 4 つの盛行期が確認され，弥生時代は墓域，古墳時代は集落といった時代ごとの特徴が指摘されています。また，保子里 1 号墳から，金製垂飾付耳飾・環頭太刀把頭・銀象嵌鞘尻などが出土したことでも知られています。

今回の調査では，12 基のピットを検出し，うち 1 基のピットから縄文土器片が出土しましたが，性格を特定できる遺構の検出はありませんでした。縄文時代の遺物は過去の調査で多数出土し，それらとの対応が考えられますが，小片であるため詳細は不明です。

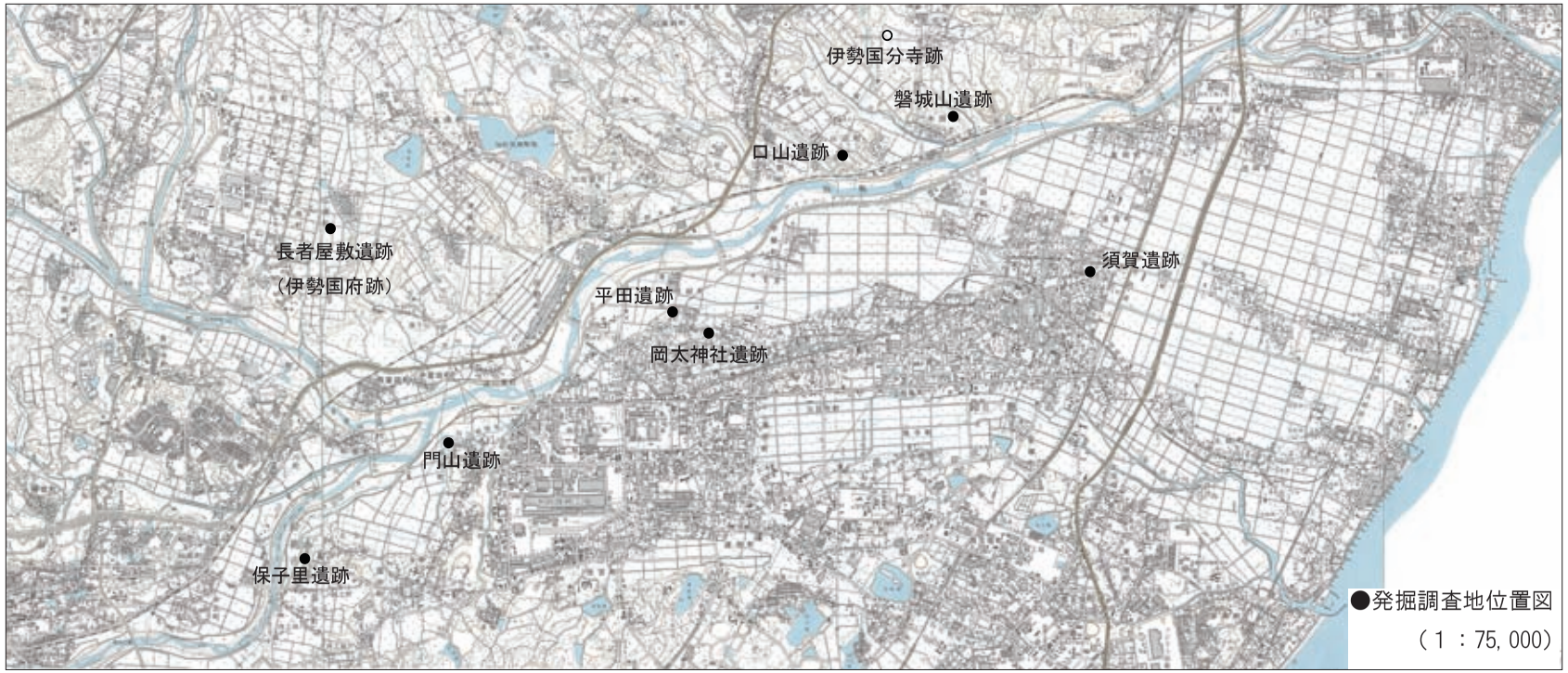
調査区南辺（東から）

長者屋敷遺跡（伊勢国府跡）第 29 次　広瀬町字中土居

12 月 1 日～ 2 月 29 日　学術調査

長者屋敷遺跡は，これまでの発掘調査によって，奈良時代中頃の伊勢国府跡であることが確認され，矢下地区の政庁跡と南野・長塚地区の官衙群の計 3 か所 73,940 ㎡が国の史跡に指定されています。現在も鈴鹿市考古博物館によって毎年学術調査が行われています。近年，遺跡北辺の金藪と呼ばれる長者伝説の残る森周辺の調査がすすみ，伊勢国府との関連が指摘されています。

今回の調査区は金藪西隣にあたり，北辺の溝は確認できたものの，金藪を囲繞する溝は確認できませんでした。



●発掘調査地位置図
（1：75,000）

この地図は国土地理院発行の2万5千分の1地形図「鈴鹿」「亀山」を使用したものである。

◆寺院・官衙シリーズ講演会◆

「古代寺院と地域社会ー都と伊勢国ー」

講　師：菱田哲郎さん　（京都府立大学文学部教授）

日　時：3月25日（日）午後2時から

「瓦で推理する三重のオモシロ古代」

講　師：竹内英昭さん　（三重県埋蔵文化財センター）

日　時：6月17日（日）午後2時から

◆調査担当者によるスライド説明会◆

「伊勢国府跡・磐城山遺跡・須賀遺跡」

5月13日（日）午後2時から

鈴鹿市考古博物館
Suzuka Municipal Museum of Archaeology
〒513-0013　三重県鈴鹿市国分町224番地
TEL 059-374-1994　FAX 059-374-0986